

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070701760		
法人名	社会福祉法人 倫尚会		
事業所名	グループホーム倫尚園	ユニット名	Bユニット
所在地	福岡県北九州市八幡西区馬場山東三丁目11-1		
自己評価作成日	平成23年1月23日		

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成24年2月15日	評価結果確定日	平成24年3月30日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム倫尚園は、福智山をバックに大自然の空気の良い環境の中で、高齢者複合施設の1階に位置しています。2階には特別養護老人ホーム、3,4階が養護老人ホームとなっており、交流を深める為のコミュニティーホールがあり施設全体の行事や地域の方々とのふれあい、介護予防事業の場として活用しています。グループホームでは食堂、談話コーナー、和室など一人ひとりを尊重し、くつろいでいただける空間の他、広々として庭園では四季折々の山々を眺めながら車椅子でも気軽に散歩や野菜づくり、気候の良い時期にはおやつ、バーベキュー等野外での活動に工夫をこらし、利用者の「暮らしの場」として潤いと豊かさ、プライバシーに配慮した家庭的な生活環境を提供しています。職員は「認知症」に対する理解を深める為、職員間での勉強会、市の認知症講習に参加し、知識や技術向上を目指し、スタッフとの連携を保ちながら利用者が安心安全な暮らしができるようサービスの質の向上に努めています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

## ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果				
自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
<b>理念に基づく運営</b>				
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者、職員が目付きやすい場所に理念を掲示し、常に意識して日々のサービス提供に努めている。理念の共有は勉強会、研修会等で取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や催し等に参加したり、地域の方々には行事の参加を呼び掛けている。また地域の方の依頼に応えるようにしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事時には認知症についての支援の方法等を説明したり、認知症のパンフレット、広報誌等を配布している。	
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホームの行事、慰問、サービスの活動内容、長谷川式スケール、認知困難事例、利用者の感想等を報告し、それに対し地域の方からの意見を取り入れサービスの向上を計っている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所として市の委託を受け介護予防事業や市の研修に積極的に参加、しサービスの質の向上に取り組んでいる。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について事業所内で研修。身体拘束委員会等で職員が共通の認識を持ち、拘束しないケアを行っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内の研修、虐待防止委員会、勉強会で虐待について取り上げ、常に意識し虐待防止の徹底に努めている。	

福岡県 グループホーム 倫尚園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内や外部での研修に参加し、利用者の家族により相談をうけ活用し支援している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には書面に沿って十分に納得される様に説明をし、質疑応答をしている。苦情に関する申し立てもフローチャートに沿って説明をし、納得のいかない時は介護保険課、国保連への申し立てもできることも説明している。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に、積極的にコミュニケーションを図り、家族等の意見、要望を傾聴し、意見をいただいた場合は管理者、職員で話し合う等迅速な対応を行い、運営に反映させている。		
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年度当初、全職員に対し運営方針に関し、大きな変更等ある場合、意見を聞き改善に努めている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として労使協議会で要望等話し合いで決定。職員が働きやすい環境条件の整備に努めている。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集、採用について法人事務局で行なっているが、現場の意見も取り入れられている。勤務については要望に応じ、働きやすい様に配慮している。		
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人内研修に参加し、学ぶ機会を設けている。又、勉強会等で人権について話し合うようにしている。		

福岡県 グループホーム 倫尚園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で研修計画を立て実施している。外部の研修についても自主的に受講し、他グループホーム職員との合同勉強会や自己学習の機会ができるように図っている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームの職員と交流し合同勉強会を行い、意見交換をして質の向上に努めている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居が決定した時点で本人の不安や思いを情報収集シートに基づいて把握し、入居後は早期に話を傾聴し、なじみの信頼関係を築けるように努めている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意向、生活歴等傾聴し、満足されるようなサービスに努める。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他機関、居宅事業、他グループホーム等との連絡調整を図りながら、利用者家族の要望に対応するように努めている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念にもかかっているが、介護者としてではなく暮らしのパートナーとしてお互いに学び支えあい、生活の知恵を出し合い(クッキング、花、野菜作り)実践している。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者と家族が共に支えあえる環境作りを支援している。家族の協力も多く得られている(行事等の参加、受診の協力、外出援助)		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活歴を把握し、本人の思い出の場所(教会、カラオケスナック、ふるさと等)との関係、交流が途切れる事のないように努めている。		

福岡県 グループホーム 倫尚園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の座席や馴染み同士での入浴、健康体操の誘い合い等、利用者同士の関係や関わりには十分な配慮してきっかけ作りの支援に努めている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に住み替えの相談、申込みの手続き、長期入院のため退去となった利用者の方の面会に行ったり、見舞いに行くように努めている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントをする際、利用者、家族には意向の確認を行い、入居時には生活歴チャートの記入、その人らしさを追求している認知症の方の代弁者としての意識を忘れず介護者本位にならない様に努めている。		
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴チャートの活用や日常生活の中で今までの暮らしの把握に努めている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の精神状態を把握し、一人ひとりの生活リズム又、できる事には手を出さず機能維持ができるように努めている。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族の意向を大切に又主治医、介護者の意見等も反映させながら利用者本位、自立に向けた介護計画を作成している。		
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画(サービス内容)のチェック生活記録、活動のチェック、介護一覧表等、毎日記録し、又水分・排泄・血圧等に問題がある方は個別に観察表を作成。活動情報を共有し介護計画の見直しに活用している。		

福岡県 グループホーム 倫尚園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人、御家族の要望には可能な限り対応できるよう、外出・ショッピング・受診・教会等の付添いを行い、支援又複合施設としての特色を活かしたり行事(豆まき、夏まつり、敬老会、運動会、餅つき等)を家族、地域の方々と一緒に参加できるように支援、取り組んでいる。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	複合施設としての利点を活かし校区内の小学校、幼稚園との交流。地区住民のボランティア、売店、理美容の訪問又、市民センター主催の参加等の支援をしている。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の希望の確認を行い、家族同伴受診時は情報を提供。受診後は個別受診経過記録にその都度記入又は在宅医療を活用し皮膚科、歯科、眼科、内科等の往診、薬剤師からの説明等を受けて健康管理の支援をしている。		
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	複合施設内に看護職が常勤しており、いつでも相談、対応も依頼できるように体制が整っている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、職員は頻回に面会し、御家族及び病院関係者と情報の交換を密に行い早期退院できるよう連携を取っている。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の方針はなく対応は困難であるが重度化に伴い家族、医療関係者と密に連携を図り、在宅医療(往診)を活用しホームの生活が継続できるよう体制を整えている。		
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成。それに従い対応を行っている。複合施設内に看護師が常勤。相談・助言がいただける体制が整っている。又、年一回救急隊員による救命救急講習を受講している。		

福岡県 グループホーム 倫尚園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	複合施設として定期的に昼夜を想定し避難訓練を実施している。又、地域の方の協力を得て訓練を実施する事もある。		
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに関しては理念にも謳っており言葉かけや対応等に常に配慮するよう心がけている。個人情報の取扱いにおいても、誓約書等取り交わし保護に努めている。		
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活でできる限り簡単な選択ができる場面をつくるように心掛けている。単語を短く区切って話をする等、能力に応じた対応をするように無理強いしないよう自己決定ができるよう支援している。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	複合施設全体で行なわれる行事、体操、食事時間は決められているが、それ以外は一人ひとりの状況や生活リズムに合わせた支援に努めている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択も自分でできるような支援に心がけている。自己決定ができない方にはその人らしさを大切にしておしゃれを支援している。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の方の積極的な希望もあり役割を持って職員と共に盛り付け、配茶、食器洗いしていただいている。又、庭の畑で収穫した野菜でクッキング(おかしづくり)をしている。		
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	複合施設として調理は厨房で栄養士によりカロリーを計算し献立されている。キザミ食、ハーフ食、減塩食と一人ひとりの状態に応じ提供。水分摂取量は個々に応じ提供。水分チェックを作成し、目標を定めている。		

福岡県 グループホーム 倫尚園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	三食後、声掛け誘導する事でしっかりとできている。自分でできない方については付添い支援を行っている。(歯ブラシ、舌ブラシ、ガーゼ等使用)		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿チェック表を作成し、排尿間隔を把握。本人の表情、行動の観察を行い、声掛け気持ちよくトイレで排泄ができるよう支援している。一人ひとりの残存機能を活かし、オムツの使用から日中はトイレで夜間Pトイレ使用で排泄、昼夜トイレで排泄ができるよう取り組んでいく。		
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や腸のマッサージ、牛乳、バナナ、野菜ジュース、ヨーグルト、水分は多めに摂っていただく等で便秘の軽減、予防に努めている。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	24時間対応できる入浴設備を備え、例えば朝一番に入浴を希望される方、気心が合った方との一人ひとり希望に応じて対応している。		
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を高めるよう、施設内外の散歩、趣味への活動、外出の支援を行い、夜間眠れるよう支援を行っていて、又個々に応じ昼寝も取り入れている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	説明書(処方箋)を薬と一緒にケースに入れ副作用等把握している。服用後、異変等あった場合、主治医に連絡を仰ぐようにしている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	若い頃の趣味を思い出しての四季に応じた飾り物の作成。針物の手入れ、食事の準備、清掃等を楽しみある生活の実現に努めている。		

福岡県 グループホーム 倫尚園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候に応じての園内外の散歩は日常的に支援している地域への買い物、レストランでの茶話会、地域の祭り、誕生月のサービスでは利用者の希望される場所への外出(教会、レストラン、ドライブ、お見舞い等)市民センターへの参加等支援している。		
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な方はお金を所持されているが、盗られ妄想の要因ともなる為、買い物の際、その場で手渡しして利用者より支払っていたくよう支援している。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族、知人からの電話の取り次ぎ、贈物が届いた際、手紙の返信へのアドバイスはその都度、支援。携帯電話を持たれている利用者には使用についての支援(電源切れのないよう)している。		
54	(22)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設を感じさせないようにアットホーム的な雰囲気作りを心がけている。季節に応じた飾り、行事の写真を廊下の壁に掲示。歩行訓練等の際に見ていただき、その時の事を思いだして頂くようにしている。		
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	固定型のベンチ、座敷、食堂等で、その時の状況に応じて一人で過ごしたり気心の合った利用者同士で心地良く過ごせるような環境作りを心がけている。		
56	(23)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時の持ち込みに制限なく飾り物、写真、絵画、タンス、鏡台、仏壇机等使い慣れたものや好みものを持ち込みいただき住みなれた環境に近づける心がけ、居心地良く過ごしていただけるよう工夫をこらしている。		
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は手すり(トイレ、浴槽、廊下)を設置、ベッドサイドには介助バーを取り付け歩行器、トイレ使用時の自立ができるよう環境の整備、トイレは「便所」と居室が分からない方には表札をかがけている。		